

森のかさぶた

—先駆性高木種という樹木の、都市林で生きる姿—



森林が破壊されたところでいち早く成長する、先駆性高木種という樹木について、都市近郊の自然林から都心の孤立林を舞台に、これらの生き様についてお話しします。

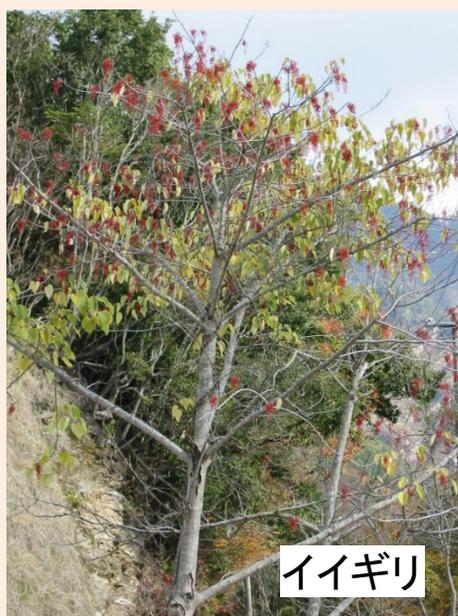
講師 島田和則 (多摩森林科学園)

森のかさぶた—先駆性高木種という樹木の、都市林で生きる姿—

先駆性高木種の生きる姿と扱い方

植物群落の成立あるいは再生過程においていち早く侵入する樹木を先駆(性)樹種といい、その中で高木性の種を先駆性高木種といいます。先駆性高木種は明るい環境で芽生えて成長しますが、明るい環境ができるためには森林が破壊される攪乱(斜面崩壊、気象害など)が必要です。しかし、攪乱によって先駆性高木種自身もダメージを受けるというジレンマがあり、これを種ごとに異なった戦略で克服して生きているのが自然状態での姿です。先駆性高木種の都市林でのふるまいも、自然状態での生き方が反映されています。

先駆性高木種は早く大きくなり、森の「傷口」をふさげる十分な高さを持ち、種によっては意外と長持ちする、森の「かさぶた」といえるかもしれません。ただし種によっては、森づくりの足を引っ張ることもあります。森づくりなどで、樹木の管理を行おうとする場合は、先駆性高木種をひとくりにして扱うのではなく、種ごとの特性を考慮する必要があります。



イイギリ

代表的な 先駆性 高木種



ミズキ



カラスザンショウ



アカメガシワ